



市街地活性化と防災の両立を目指したハード・ソフトの連携まちづくり



大分県 都市・まちづくり推進課景観・まちづくり班
主任（津久見市から派遣）上 藺 伶史

1 はじめに

セメント産業とみかんの名産地として有名な津久見市は、太平洋側豊後水道に面しているため、南海トラフ地震発生時の津波に対する市民の避難行動が課題となりました。一方で、南端にJR津久見駅を擁する同市の市街地は、人口減少等による空き家、空き店舗の増加が目立ち、沿岸部の「つくみん公園」に集まる多くの来訪客を市街地まで周遊させる活性化策などを検討していました。

そうしたなか、平成29年9月に来襲した台風第18号によって、市内中心部を流れる津久見川が氾濫し、市街地全域が床上浸水被害に見舞われてしまいました。



台風第18号による被害状況

この災害を受け、津久見川の改修が「河川激甚災害対策特別緊急事業（激特事業）」として指定されましたが、市民の市外転出を回避するためにも、本事業によるまちの防災機能の強化に加え、市街地における市民の日常生活の快適性や上記周遊性を向上させるハード・ソフト両面からの取り組み

が継続的に行われています。

2 取組の内容

①「コンテナ293号」と「Cafe1/2（ニブンノイチ）」の設置による拠点づくり

平成27年にイベント活動や市の情報発信拠点として、つくみん公園に「コンテナ293号」が設置されました。



コンテナ293号

これは津久見観光周遊性創出事業の一環で、市民、地元高校生・大学生、福岡大学、大分大学がワークショップを重ねて考案したものであり、低予算を補うために、地元企業からコンクリートや漆喰等の提供を受けて、建設業協会青年部や鉄工所、大工等による施工支援、市民や大学生のボランティアによる支援等によって完成しました。

さらに、市街地側のコミュニティ拠点として、旧西日本銀行跡の宮本共有会館を一部改装し「Cafe1/2」が設置されました。ここでもコンテナ設置に携わった市民らが壁の漆喰塗りを手伝うなど、多くの支援によって完成しました。「Cafe1/2」は、台風第18号による浸水被害の際にも早期復旧を果たし、被災直後、災害ボランティアの待機所

兼休憩所として活用されました。



Cafe1/2 (カフェニブンノイチ)

現在では、「コンテナ 293 号」と「Cafe1/2」は、設置に携わった市民らによって設立された「NPO法人まちづくりツクミツクリタイ」の活動拠点となっています。

②「スイーツ&防災マップ」

令和元年度には、市街地周遊の促進と避難意識の啓発の両方を目的とした「スイーツ&



スイーツ&防災マップ

防災マップ」を作成しました。このマップは、13軒の菓子店の場所と紹介文を、手書きの見開き地図1枚にまとめたもので、街中の見所や駐車場、トイレ、授乳室、コインロッカーなど観光客向けの情報も併せて記載しています。また、高洲公園や角崎公園などの地震時避難場所、大友公園や宮山公園などの津波時避難場所、市役所や公民館などの風水害時避難場所等、災害の種別ごとに避難場所を明記しています。

3 災害対策と都市再生の一体的整備計画の策定

津久見川改修が激特事業に指定され、防災機能の強化とともに、周辺エリアに対して市主体の都市再生整備計画事業を重複する期間で立案するなど、災害対策と都市再生の一体的な整備計画の策定がなされました。策定過程において、事業主体である大

分県と津久見市に加え、まちづくり支援の協定を結ぶ福岡大学景観まちづくり研究室の三者でプロジェクトチームを発足させ、市民意見を聴取するなど連携と市民参加を基本としたまちづくりを進めています。



市民を交えたワークショップの様子

4 おわりに

「コンテナ 293 号」を設置するプロセスが生み出した人的な組織形成が、「Cafe1/2」の円滑な活動展開に寄与したこと、その過程で「ツクミツクリタイ」が設立されたことは大きな成果です。

「スイーツ&防災マップ」については、「マップを手取るか」との問いに対して59人(83.4%)が「手取る」と回答し、「ハザードマップよりも手取り易い、意外性がある面白い」といった意見が得られました。

最後に、激特事業と都市再生整備計画事業の一体的な策定については、津久見川の魅力を向上させるため、コンクリート護岸から県内産の石積み護岸への改修や架け替えられる橋のデザイン性向上、残地に対して親水性や市街地に対する眺めを考慮したベンチが置かれる設計案など、様々な案が出され、プロジェクトチーム発足によって円滑な調整が可能となりました。